

西光寺だより

第二八一号 令和七年九月一日発行

残暑の候 皆さまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます
、とのご挨拶のほすが、暑さ厳しく、熱中症大丈夫ですか、と今なお毎月同じご挨拶ではじまり、さていつになったら、涼しくなり残暑もようやく和らぎ、クーラーがなくても心地よく眠れる季節となりました、そんなご挨拶ができる日が来るのか、ただただ待ちわびていることでもあります。

この暑さで蚊や蜂などの虫たちも少なくなっているようです。
その代わり、これからの九月あたりにその虫たちが出てくるのかも
とテレビでも伝えていました。

そういえばあまり蚊にも刺されてないような…。
決して無理なさらず日々を過ごされ、どうぞ皆さまくれぐれもご自
愛ください。

◆先月の報告◆

八月十五日(金) 十八時より西光寺本堂にて盂蘭盆会法要を厳修いたしました。暑い日でありましたが、御参詣の皆さまと阿弥陀経のお勤め、お焼香をいたしました。

例年の行事を無事に進められること、そして戦後八〇年の節目のこの時に、多くの先人さまのおかげで今があることに感謝しながら、皆さんで手を合わせることができました。

そして、先日大谷本廟にお参りした際にこんなご法話がありましたので載せさせていただきます。

NHK朝のテレビ小説「あんぱん」が放送されています。

『アンパンマン』を生み出したやなせさん夫婦をモデルに、
『逆転しない正義』を体现した『アンパンマン』にたどり着くまでが描かれています。

『アンパンマン』は、やなせさん自身の戦争体験が基になって生まれたといわれます。

やなせさんは自身の経験を通して、弟さんの戦死のこと、飢えることがどんなに辛いことだったかを多くの本に書き残されます。

戦争が終わり、世の中の価値観がガラリと変わります。

戦中は「正義の戦い」と言っていました。戦後は手の平を返したように、「正義の戦い」など存在しない、戦争そのものが悪なのだ…。

ならば弟の死はなんだったのか。あのひもじい思いをしながら乗り越えた日々は何だったのか。すべてが無駄なことだったのではないのか、

「正義」は、立場によって簡単に変わってしまうことを実感するので
す。その中でやなせさんは一体何が本当の正義なのかを考えます。

その答えが「どんな時代であってもお腹を空かせている人に食べ物を
与えることが出来るのならそれは本当の正義だ」という答えにたどり着きます。

そして生まれたヒーローが、お腹が空いたり困っている人がいたら、
いつでもどこでも飛んでいく『アンパンマン』です。

親鸞聖人は阿弥陀如来のお救いが説かれる『仏説無量寿経』を「真
実の教え」と示されました。真実とは、

「不顛倒（ふてんどう） 不虚偽（ふこぎ）」。

不顛倒とは、決してひっくり返りません、という意味で、不虚偽は、
嘘、偽りが混じりません、ということ。す。

つまりは、どのような時代であっても阿弥陀如来のお救いは真実で
あり、ひっくり返ることはありません。どの場所であつたとしても文
化、道徳に影響されることがないのが阿弥陀如来のお救いであり、そ
れを「真実の教え」だと示されるのです。

人間が築きあげたものはその時の都合、立場によっていとも簡単にひっくり返ってしまいます。

阿弥陀如来は「あなたをお浄土に生まれさせ、うるわしき仏とするよ」と南無阿弥陀仏のお念仏となつてご一緒下さります。

この私の人生が人間の色々な価値判断の中で、ある時は正義であり、ある時は逆の立場に立つことがあったとしても、命終わって浄土に生まれ、困っている方々を自由自在に救える仏となつていける。

何もかもがひっくり返っていきかねない世界に生きる私に、決してひっくり返らない、変わらぬ真実の教え。

南無阿弥陀仏のお救いが今私のところに届けられる。それが浄土真宗です。

浄土真宗本願寺派布教使 津村 秀憲



◆九・十月の行事◆

・九月 在家報恩講（正信偈）

・九月 十八 日（木）

仏教婦人会報恩講

午後一時

西光寺本堂

・十月 九 日（木）

秋季永代経法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎御講師 高島 幸博 師（本願寺派布教使）

※昼はお勤めとご法話で、夜はお勤めのみとなります。
ご注意ください。

・十月 十六 日（木）

大谷本廟墓参（みのり講・穂積講の方）

午後二時

大谷本廟お茶所

※なお、墓参の際、念珠・経本・千円を宜しくお願いいたします。
行かれない方は千円を墓参に行かれる方、または、お逮夜参り
の際などによりしくお願いいたします。